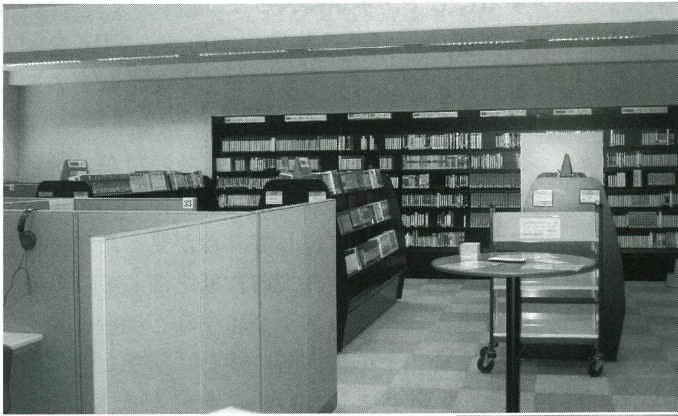


0-4-5

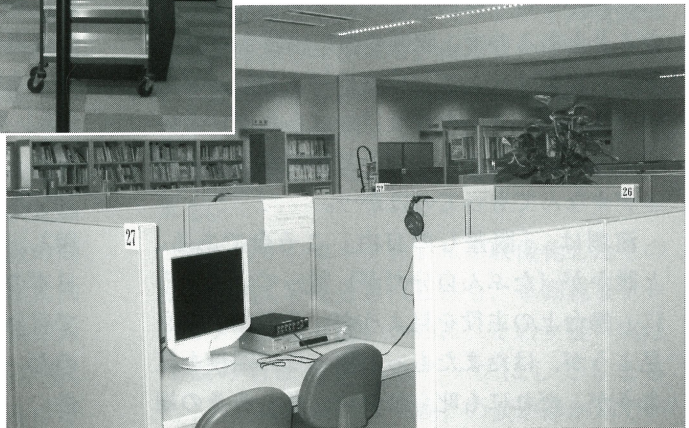
ISSN 0288-1594

AV JOURNAL

2005年 3月 第35号



(AVライブラリー)



目 次

ビデオ嫌い.....	堀江新二.....	2
エドワード・ノートン、マット・デイモン.....	野中 篤.....	4
期待されるAVライブラリー	AVライブラリー事務室.....	6
マルチメディア教室1、2のリプレイスについて.....	AVライブラリー事務室.....	9
〈LL便り1〉平成16年度テープ・ライブラリー利用統計.....		12
〈LL便り2〉DVD所蔵一覧 その4		13
AVライブラリーからのお知らせ.....		16

ビデオ嫌い…

ヨーロッパI講座ロシア語 堀江 新二

視聴覚教材は、専門が演劇だからよく利用するのだが、本当はビデオが嫌いである。映画もあまり好きではない、というより、「視座の問題として、演劇の専門家である自分には受けつけられないところがある」と言ったほうが格好いいかもしれない…。いや、ただ昔から芝居を見てきて、そっちに目が慣れているだけの話で、映画やテレビの存在を貶めるつもりはまったくない。結構映画も好きなので、最近足が遠のいたが、学生時代は映画をよく見たし、今もロシア映画なら、仕事柄なるべく映画館で見ようとしている（実は3年半ほど映画会社で「禄を食んで」いたこともあるので、映画の悪口は言えない）。ただ、声を大にして言いたかったのは、演劇の映像化は、まったく受けつけられないということだ。もちろん、テレビ中継も然り。ビデオなんでもってのほか…。

演劇は、「眼差しの自由」こそ命である、と誰かが（たぶん自分だが）言っているように、舞台上の主役を見ようが、その相手役を見ようが、はたまたもっと隅っこの端役を見ようが、だれにも叱られない。むしろその端役たちが、主役の台詞に合わせて、驚いたり、皮肉な眼で見たり、無視したりするから、演劇が面白いので、恐らくだれでも経験のある「学芸会」の面白さにそれは通じるものとも言える。ところが映画はどうだ！（などと偉そうに…）、監督の眼差しがすべてなのだ。フィルムを減多切りしようが（編集）、嫌な顔をこれでもかというほどアップにしようが、その顔からパンしてそばの猫を映そうが……。しかし、「眼差しの自由」は何千年もかけて僕たちが勝ち取ってきた「物の見方」の歴史的産物ではなかったのか！（と、また偉そうに…）。もっとも、映画はだから「凄

い」という面もあるわけで、ヒットラーもスターリン、ディズニーも大いに利用したわけで、「眼差しの自由」を奪われた庶民はみな、ある方向だけを見てしまったと言える（言えない？）。ま、この辺は映画学の方にお任せするにして、本題に入ろう。

問題は、演劇の映像化である。NHKなどの舞台中継などもそうだが、なぜテレビのディレクターはアップが好きなのか？ NHKには匿名でもう2回も投書したのだが、一向に聞き入れてくれない。美人女優が泣いている場面で、アップにして鼻水が見えたり、本当は64歳なのに、39歳の作家を演じている有名男優が、やはりアップにすると60台に見えてしまい、その彼が若い娘を「誘惑」しても「孫」を相手にしているようにしか見えず、これでは芝居は台無しである。だいたい、1958年に日本が戦後初めて外国から演劇を招聘し、あのモスクワ芸術座が来日したとき、日本人々は何に驚いたのか？ それは舞台で行われる演技のアンサンブルの凄さだったのだ。主役から端役まで、それは見事に「自然に」演じていて、どこの場面を切り取っても生活が見事に再現され、俳優たちが「生きていた」。同時に、演劇が約束事（舞台で行われていることは現実ではないので、あとは見ながら観客が想像で補ってくれ、という）の芸術であることも、しっかり教えてくれた。だから60歳の名優が演じる30歳台の役でも、僕たちは、それを想像で補ってきたし、「ハムレット」が嘘のサーベルで伯父を刺し、血が流れなくても、それは（もちろん見事に演じられての話だが）そこに偉大な悲劇の終末を「アリアリと」見たのである。

だから、芝居だけは、カメラと通して見ると、それはもう芝居ではなくなって、別のも

のになってしまうのだ。それをテレビ局の方々は、まるでドレンディドラマを撮るようなカメラワークで演劇を撮るから、困ってしまう。

演劇は「一回性の芸術」と呼ばれ、そのとき限りで、「消えていく」ものだ。実際に同じ芝居で、同じ役者がやっても、初日と10日目の千秋楽では、まるで「違う」芝居になっていたりする。そのときの俳優の体調や年齢、天候、政治・経済情勢などなど様々な変化で芝居も変わっていく。20年たつともう「完全に」別の芝居と言ってもいい。

そういった訳で、資料としては大事だが、演劇のビデオ化、映像化はやはり嫌いなのである。いや、嫌いなので「あった」。が、最近、ちょっと見直す場面もあって、ビデオだからこそ、アップだからこそ分かるのだなあ、と感心したこともあるから、それをここに書かないとビデオや映像に対し「公平さ」を欠くことになるし、テレビマンや映画屋さんにあまりに失礼ではないかと思うので、ちょっとだけ書いておく。

それは、ロシアの第一チャンネルが映像化したワフタンゴフ劇場の『罪なき罪人』というオストロフスキーの芝居である。紙数の問題があるから、思い切り端折って、簡潔に内容を書くと——40歳くらいのペテルブルグの有名女優（18、9の頃、いろいろな事情から、産んだばかりの子と離れ離れになり、てっきりもうその子は「死んだ」と思っている）がある田舎町の劇場に、そこの俳優たちと芝居するためにやってくるのだが、その俳優たちの中に、21歳ほどの若い俳優がいて、孤児だったというその男の暗さや寂しそうな人柄に「惹かれて」いく。女たらしで有名なその男は、金ほしさもあって、その女優に近づくが、いつものように「くどく」ことが出来ない（もちろん、この男が女優の実の息子だということは、だれでも知っている有名な芝居である）。この二人が初めて手を握り合う場面が問題の箇所だ（金をせびりに来た男が、なぜかその女優の態度に負けてしまい、目的を

果たせず）、別れの握手をするところ。握手をした瞬間に二人の間に強烈な「気」が流れる。それは実の親子にしか起こりえない「血」の働きに相違ない（芝居ですからね！）。でも、まだ当然二人は自分たちが親子であることは知らない（しかし、台本を読んでいる俳優たちは知っている）。だから、ここで母親役の女優は、「滂沱の涙」を流してはいけないのは当たり前だ（実際に、芝居の最後で二人が親子と分かったときは、観客席の遠くから見ていても分かるほどの大量の涙を女優は流していた）。ここでは「得体の知れない予感」だけでいいわけで、母親として血を分けた実の息子の手をとった瞬間に電気のようなものが体を走った。そこでどんな涙を流せばいいのか？それは目に微かに浮かぶ「一滴」の涙でいいはずだ。それは客席の遠くからではおそらく見えない涙だろうし、そんな涙はなくても演技は出来る。実際舞台上を見たときの女優の動きは素晴らしかった。一瞬失神しながらも立ち直り、その男の手を離すまで、完璧な演技だった。それで舞台ではいいのである。

ところが、ロシアテレビが映像化したその場面を見ていたとき（しかも、単細胞なテレビマンが、よせばいいのに、その女優＝実は70歳の名優だが＝をアップにしてしまった！）女優の目に「一滴」の涙が浮かんでいるではないか。小さな、微かにしか見えない一滴のしずくが目の端に見えている。母親の本能がその男を息子と見抜いて、それが事実なら本当は「滂沱の涙」を流してもいい場面だ。でもそれはあくまで「本能」だけのこと。まだ意識の上では、相手は「赤の他人」の若者である。涙が出るのがおかしい。でも、本能は…。そこで一滴の涙。それもすぐ乾いてしまう…。

テレビのアップのおかげで、ロシアの俳優たちの「凄さ」がまた分かってしまった。いや、テレビやビデオはありがたいものでねえ。

エドワード・ノートン、マット・デイモン

一次代を担う天才アクター達一

非常勤講師 野中 篤

昨年、AVライブラリーが新装され広いスペースで映画を鑑賞できるようになった。

私は一映画ファンとして大変うれしく思う。たくさん映画をここで見たが、二人のアメリカの俳優について書きたい。

エドワード・ノートン、マット・デイモン—現代のハリウッドを代表する俳優である。

エドワード・ノートンは1969年生まれで1996年に『真実の行方』でスクリーンデビューする前に4ヶ月、大阪に住んでいて海遊館で働いていたことがあるというユニークな経歴の持ち主である。彼の代表作に『ファイトクラブ』(1999. デビット・フィンチャー監督)がある。大量消費社会に対する痛烈な批判、人間の自由な精神の復権。この映画には、このような思いが込められているように思える。平凡なサラリーマンだった一人の青年が、ある若者との出会いから『ファイトクラブ』を結成しやがて驚愕のラストシーンへ。彼は、知性と狂気が内在した稀有なアクターの一人である。『スコア』(2001. フランク・オズ監督)ではロバート・デ・ニーロ、マーロン・ブランドとの共演をはたした。モントリオールの税関の秘宝を盗む話だが、三人のファンの私にはとても楽しめた映画だった。この映画でのエドワード・ノートンは切れ者の泥棒の役だった。自信過剰の彼は、先輩格のデ・ニーロに反目するのだが……。ラストのどんでん返しは、痛快だった(これからご覧になる方もいらっしゃると思うので、これ以上書くことを控える)。アメリカの俳優にとって監督業やシナリオライターに進出するのは、自己のステイタスを高めるための大きなステップである。彼も『僕たちのアナ・バナナ』(2000)で初監督をおこな

った。幼なじみの男二人、女一人のストーリーである。三人は、成長しそれぞれユダヤ教のラビ(僧侶)、カソリックの神父、エリート・ビジネスウーマンになる。良質のラブ・コメディで楽しい作品だった。エキセントリックな役の多いエドワード・ノートンであるが、3枚目のカソリックの神父を演じ俳優としての幅の広さを感じさせる作品だった。

次にマット・デイモンだが、彼は1970年生まれである。現在、公開中の『オーシャンズ12』に出演している。マット・デイモンは、『ラウンダーズ』(1998. ジョン・ダール監督)でエドワード・ノートンと共演している。大学で法律を学ぶマット・デイモン扮する学生は、カード(ギャンブル)の天才であった。しかし、非合法のカジノで負け無一文になった彼は、カードから足を洗い法律家を目指して勉強に打ち込もうとした。その彼をまたカードの世界に引きずり込むのがノートンの役である。ラストでデイモン扮する学生が、一度大負けした非合法のカジノでジョン・マルコビッチが演じるボスと繰り広げるカードの一騎打ちは、この映画の見せ場である。マット・デイモンは、『レインメーカー』(1997)で、新米弁護士を演じるが、エドワード・ノートン同様、名門大学で学んだ彼には、弁護士はまさにハマリ役だった。ミッキー・ロウカー、ダニー・デビット、ロイ・シェイダー、ジョン・ボイドら素晴らしい俳優の共演もあり人間の良心や尊厳を考えさせられる作品であった。マット・デイモンは、『グッド・ウィル・ハンティング/旅立ち』(1997)でアカデミー脚本賞を受賞した。彼が演じる若者は、ハーバード大学で清掃の仕事をしていた。しかし、天才的な頭脳をもつこの若者は、数学科の教授が出した難問を簡単に解いてしま

う。NASAからも誘いを受ける。だが、幼い頃に親から虐待を受けてそれが原因で人に心を開けず攻撃的な態度をとってしまう。恋人も彼のもとから去ってしまう。ロビン・ウィリアムスが演じるカウンセラーが、その事実を知り「悪いのは、君じゃない」と彼に何度も繰り返す。彼は、カウンセラーに涙ながらに今までの非礼を詫げる。初めて人に心を開いたのだ。そして決まっていた大企業の就職を断り友人達からプレゼントされた中古車に

乗り生まれて初めて故郷を飛び出し恋人の元に向かった。

自分の殻にしがみついて生きるのは、ある意味で安全で楽なことかもしれない。それらを打ち破って生きるには、勇気もいるしリスクをとまなう。しかし、その向こうには、胸躍る新しい世界が待っていると私は信じる。

これらの映画はAVライブラリーで観られる。是非、ご覧ください。

文中で紹介された本学所蔵の資料一覧

(タイトル)	(請求記号)	(資料タイプ)
「ファイトクラブ」	E-0947	LD
「スコア」	E-1077	DVD
「僕たちのアナ・バナナ」	E-1011	DVD
「ラウンダーズ」	E-0930	LD
「レインメーカー」	E-0899	LD
「グッド・ウィル・ハンティング ／旅立ち」	E-0857	LD

期待されるAVライブラリー

—図書館利用アンケート調査から—

昨年10月に実施しました図書館利用アンケート調査にご協力いただき、ありがとうございました。おかげさまで、下記のように学部学生の約6割、大学院生の約3割、職員等の約2割の方々から貴重な回答を得ることができました。

今回は、この図書館利用アンケートのうち、AVライブラリーに関係する部分について、調査結果をご報告致します。

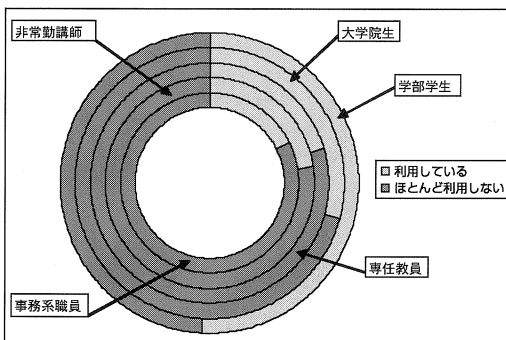
所 属	現員数	回答数	回答率
学部学生	4527	2689	59.7%
大学院生	331	98	29.6%
教職員等	853	159	18.6%

1) あなたはAVライブラリーをどの程度利用していますか？

以下のように、まだ学部学生の半数、大学院生の3/4はほとんど利用していません。

どのようにすればもっと利用してもらえる

	利用している	ほとんど利用しない
学部学生	1354	1315
大学院生	28	68
専任教員	10	39
非常勤講師	11	38
事務系職員	7	33



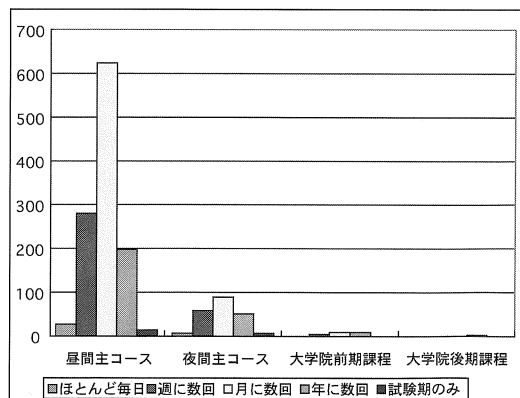
ようになるのか、真剣に検討しています。

コメントには、「AVライブラリーの使い方がいまいち分からないので利用したいがしていない。友人でも利用している人をきいたことがない。もう少し一般生徒（ママ）に利用してもらえるよう開かれた感じの雰囲気、気楽に利用できるようにしてほしい。」という要望が寄せられています。

2) 利用したことのある学生、院生の利用頻度は？

学部学生、とりわけ昼間主コース学生の利用者が多く、月に数回から週に数回程度の利用が最も多いようです。少数ながら、ほとんど毎日利用している人もいます。

	ほとんど毎日	週に数回	月に数回	年に数回	試験期のみ
昼間主コース	26	279	624	197	13
夜間主コース	7	58	90	52	6
大学院前期課程	1	4	10	9	0
大学院後期課程	0	0	1	3	0



3) どんな目的でAVライブラリーを利用していますか？(3つまで)

	語学学習のため	映画鑑賞のため	教養を深めるため	その他
学部学生 昼間コース	421	1466	296	60
夜間コース	127	292	75	21
大学院生 前期課程	12	36	12	4
後期課程	3	6	1	3

以上のように、映画鑑賞を中心に、様々な目的で使われています。

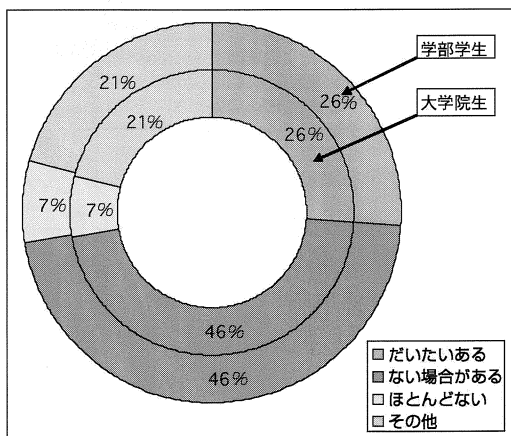
「その他」としては、「音楽鑑賞」、「持ち込みビデオの視聴のため」、「副専攻語の課題になったため」、「映画研究(論文作成)」、「PAL方式で撮影されたホームビデオ(ホームステイ)鑑賞」などが挙げられていました。

「AVライブラリーには、2人・3人用のブースがあるけれども、他の人も別の様々な映画を同じ部屋で見ているのだから、私語禁止にしてほしい」というコメントがありました。皆さん、周りの人の迷惑にならないように気を付けましょう。

4) 必要とする視聴覚資料は、AVライブラリーにありますか？

「だいたいある」と満足している学生、院生は26%とまだ少数です。

皆さんの要望もよく聞いて、できるだけ資料を充実させていきたいと思っています。



	だいたいある	ない場合がある	ほとんどない	その他
学部学生	630	1116	165	495
大学院生	646	1148	172	517

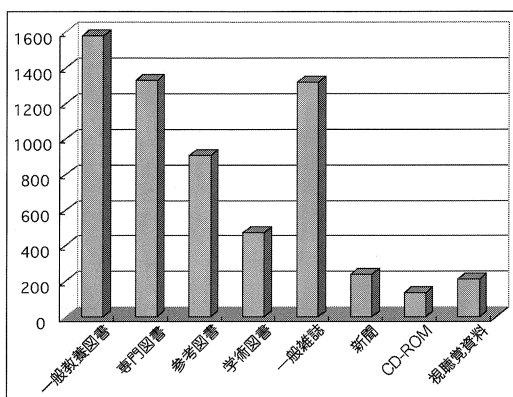
必要な資料に関しては次のようなコメントが寄せられています。

- 「AVライブラリーが非常にきれいになって満足しています。目当ての資料が見つかりにくいときがありますので、その点を改善していただければと思います。」
- 「なかなか時間がなくてAVライブラリーに行けないのですが、外大生であるうちに通って、普段見られないような国の映画を見ておきたいと思います。」
- 「AVライブラリーがかなり気に入っています。新しい映画がたくさん入れば、その分とてもうれしいです。」
- 「ビデオテープでだと雑音が入ったり、音飛びがするのでDVDを増やしてほしい。」
- 「小説やDVDをもっと多く入れて欲しい。」
- 「AVライブラリーにもっといろんな映画を置いてほしいです。結構大きな作品ばかりなので。」
- 「DVDをもっと増えればいいなと思います。」
- 「AV資料の数をもう少し増やしてほしい。特に一般人では手に入れるのが困難な古い時代のものなど。」
- 「AVライブラリーのDVD(映画)の数をもっと増やしてほしいです。」
- 「AVライブラリーをよく利用するのですが、ここはけっこう利用者が多いので、置く映画の数をどんどん増やして欲しいです。」
- 「視聴覚教材について、一般のビデオ店にはない外大ならではのビデオ(例えば、ハンガリーの映画など)を現地から取り寄せて増やしてほしい。」

- ・「AVライブラリーにもっといろんなドキュメンタリー映画（映像）を置いて欲しい。」
- ・「図書館は環境が良く読書しやすい。少し騒がしい時もあるが…。AVライブラリーの資料をもう少し増やしてほしい。」
- ・「AV資料をより一層充実させて下さると助かります。」（職員等）

5) 今後充実してほしい資料は？（4つまで）

	一般教養図書	専門図書	参考図書	学術雑誌	一般雑誌	新聞	CD-ROM	視聴覚資料
学部学生	1553	1256	878	420	1301	234	127	209
大学院生	31	75	30	56	21	6	9	5
計	1584	1331	908	476	1322	240	136	214



6) 図書館広報紙 (AV Jurnal, Library Information) の認知度は？

	知っている	利用したことがある
学部学生	14.3%	2%
大学院生	7.1%	1%

以上のように、あまりよく知られていないし、手にとって読まれてもいないことが分かりました。大いに反省しています。もっと皆さんに親しまれ、利用される広報紙になるよう頑張ります。

「AVジャーナル」はAVライブラリーのカウンター及び図書館1階ホールに常置していますので、一度手にとってご覧ください。

7) その他

(1) 視聴覚資料の貸出について

コメントには、「AV資料の貸し出しをしてほしい」という声が寄せられています。視聴覚資料を館外に貸し出すことは著作権法で厳しく制限されています。

著作権処理済みの視聴覚資料ならば貸出可能ですが、貸出中は他の学生が利用できないことや高額なため多数購入することができないので、現状では困難です。今後の検討課題に致します。

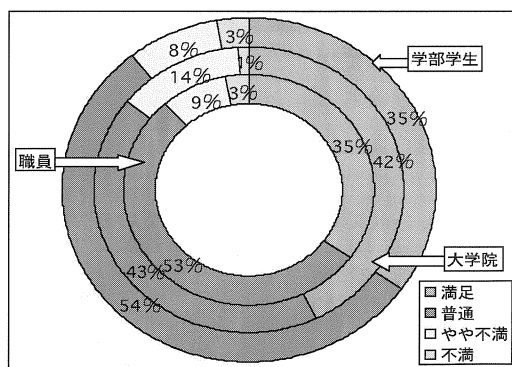
(2) AVライブラリーの開館日、開館時間について

日曜・祝日を含めた開館日の増加、平日及び土曜日の開館時間の延長、授業のない日の開館時間の延長要望がたくさん寄せられています。

このことについては、附属図書館の利用アンケートの結果報告のなかで行う予定です。

(3) 図書館職員の対応について

図書館棟で働く図書館職員も含めたアンケートですが、次のような結果となりました。



2年前の同様のアンケートでは、「やや不満」と「不満」の合計が30%ありました。

今回は12%に減っています。

頑張った甲斐がありました。さらにサービス向上のために努力していく所存です。

マルチメディア教室 1、2 のリプレイスについて

図書館利用部門 AVライブラリー事務室

昨年3月に完成した総合研究棟の1階に、図書館4階の旧LL教室4-Iと4-IIが移転しました。マルチメディア教室1、2と名称が変わり機器を更新し、10月から授業を開始しました。

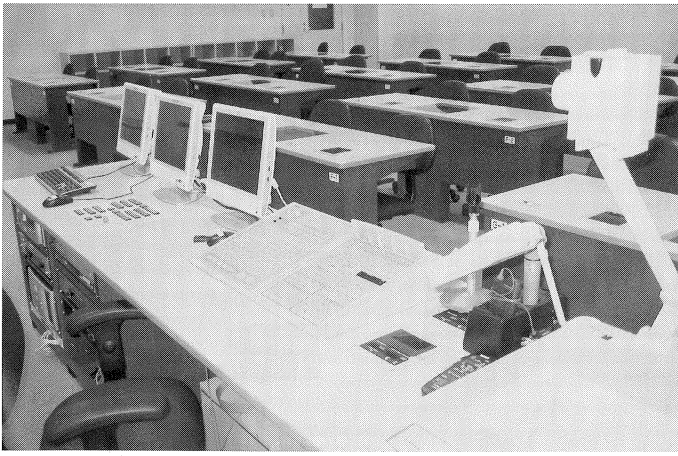
「機器構成表」のとおり各ブースにMDレコーダーが設置され、生徒は録音用MDを持参して先生が送出する教材の音声を録音することができます。従来どおりテープレコーダーによるカセットへの録音もできます。

ブースの液晶モニターは2人に1台設置されましたが、そのほか教室正面に50インチプラズマディスプレイが設置され大画面でDVD、パソコン等の映像を見ることができます。

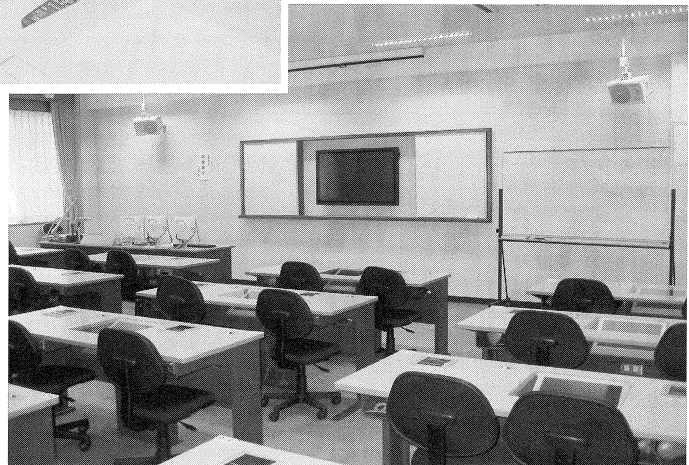
「機器構成表」にある「DVD/VHSプレーヤー」のVHS操作部で海外衛星放送の受信ができ、各ブース、プラズマディスプレイ、および教師用ディスプレイに画像が送られ、音声がスピーカーとヘッドセットに流れます。

マスターコンソールには3台のディスプレイが備え付けられ、ブースの動作確認、映像資料のモニター、パソコンのモニターが可能になっています。

また、備え付けのWindows型パソコンによる教材のプレゼンテーションだけでなく、持ち込み用パソコンに対応した接続端子を備え付け、音声と映像の両方を活用したデジタル教材やマルチメディアを基本とした語学教育が可能になっています。



(マルチメディア教室1)



マルチメディア教室 1, 2 機器構成表

1. マスターコンソール	
1-1 マスターコンソール (コンソール卓、袖卓を含む)	1 式
1-2 マスターテープレコーダー	2 台
1-3 ヘッドセット (教師用)	1 台
1-4 マルチスキャン液晶ディスプレイ	3 台
1-5 コントローラ用パソコン	1 台
2. CD/MDプレーヤー	1 台
3. DVD/VHSプレーヤー	1 台
4. DVDプレーヤー (PAL対応型)	1 台
5. 方式変換ビデオ	1 台
6. 高品位教材提示装置	1 台
7. Windows型パソコン (資料提示用)	1 台
8. プラズマディスプレイ	1 台
9. マトリクススイッチャー (リモコン付)	1 台
10. ワイヤレスマイクシステム (ピン、卓上型)	1 式
11. ハウリングサプレッサー	1 台
12. パワーアンプ	1 台
13. 電源制御ユニット	3 台
14. アナログRGB入力、出力スイッチャー	1 台
15. 映像分配器	7 台
16. アナログRGB分配器	4 台
17. 前面スピーカー	2 台
18. 天井埋め込みスピーカー	4 台
19. ブーステープレコーダー	40 台 (38 台)
20. ヘッドセット	40 個 (38 個)
21. ブース液晶モニター	20 台 (19 台)
22. MDレコーダー	40 台 (38 台)
23. ブースデスク	20 式 (19 式)
24. 教師用椅子	2 脚
25. 学生用椅子	40 脚
26. 天井固定式スクリーン	1 式
27. 無線LANアクセスポイント	4 式

* () 内の数値はマルチメディア教室 2 の数量。

教卓の 3 台のディスプレイのうち一台はブースの管理用でありマスターコンソール左側のメインコントロールユニットと同じものが画面に出ます。2 台目は DVD、VHS 等使用時の教師用モニターです。3 台目はパソコン使用時のモニターで、備え付けのパソコンのほか、教師が持参したノートパソコンに接続できます。

A Vライブラリー利用案内

A Vライブラリーでは映画、演劇、音楽、語学などのDVD、ビデオ、LD、CD、MD、カセットなどのA V資料および海外衛星放送の視聴が出来ます。

① 利用方法

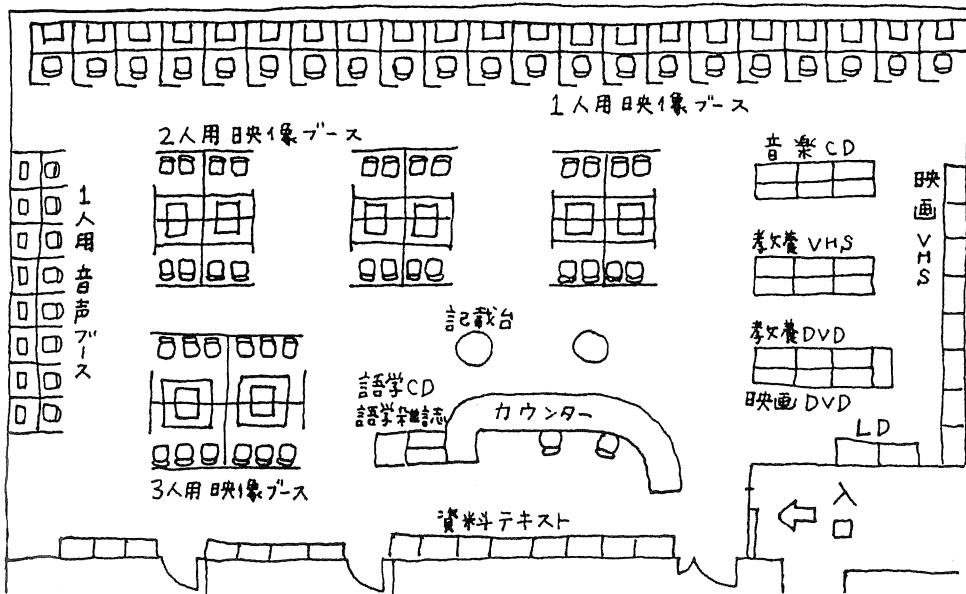
陳列棚あるいは目録で希望の資料を探して下さい。見つければ、A V資料請求書に所定の事項を記入し、学生証を添えてカウンターに提出し、ブースの指定を受けて視聴して下さい。

② 開館時間

月～金曜日（授業期間中）	9：00～21：00
月～金曜日（授業期間外）	9：00～17：00
土曜日（授業期間中のみ開館）	10：00～16：00

（休館日は図書館休館日に準じます）

A Vライブラリー館内図



<LL便り1>

平成16年テープ・ライブラリー利用統計

1) 映像資料月別利用統計 (VCDはDVDの件数に含みます)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
VHS	464	367	117	565	597	732	807	125	129	280	249	231	4663
DVD	894	739	205	1,517	1,691	2,043	1,650	250	416	1,780	1,488	1,374	14,047
LD	31	20	11	43	42	59	60	11	69	174	171	217	908
衛星放送	48	20	6	51	40	52	37	8	15	58	64	35	434
計	1,437	1,146	339	2,176	2,370	2,886	2,554	394	629	2,292	1,972	1,857	20,052

2) 音声資料月別利用統計

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
カセット	177	55	9	88	88	91	90	13	13	91	97	83	895
CD	104	81	8	133	111	101	86	18	42	148	114	180	1,126
MD	3	0	0	0	0	2	2	0	0	3	5	2	17
計	284	136	17	221	199	194	178	31	55	242	216	265	2,038

3) 利用の多かった映像資料です。(利用頻度、総合)

資料名(制作年)／監督名	資料番号	利用回数
① 猟奇的な彼女(01)／クァク・ジェヨン	K-0136	362
② 秋の童話(00)／ユン・ソクホ	K-0134	288
③ 冬のソナタ(02)／ユン・ソクホ	K-0137	263
④ シカゴ(02)／ロブ・マーシャル	E-1135	237
⑤ 戦場のピアニスト(02)／ロマン・ポランスキー	E-1132	205
⑥ めぐりあう時間たち(03)／スティーヴン・ダルドリー	E-1136	162
⑦ 8人の女たち(02)／フランソワ・オゾン	F-0387	155
⑧ イヴのすべて(00)／パク・チヒョン	J-0472	154
⑨ ボウリング・フォー・コロンバイン(02)／マイケル・ムーア	E-1131	150
⑩ 海辺の家(01)／アーウィン・ウィンクラー	E-1116	117

なお、少しでも多くの作品を紹介するために、総合ランキングでは平成15年に利用ランキングにあがった作品は除いております。

〈LL便り2〉

DVD所蔵一覧その4

〈資料名(公開年)／監督名〉	〈時間〉	〈資料番号〉
(アラビア語)		
D.I. ('03)／エリア・スレイマン	1'33	A-0058
(ポルトガル語)		
神曲 ('91)／マノエル・デ・オリヴェイラ	2'22	BP-0045
家宝 ('02)／マノエル・ド・オリヴェイラ	2'11	BP-0062
オルフェ ('99)／カルロス・チエギス	1'52	BP-0067
モロ・ノ・ブラジル ('02)／ミカ・カウリスマキ	1'49	BP-0079
ノン、あるいは支配の虚しい栄光 ('92)／マヌエル・デ・オリヴェイラ	1'46	BP-0080
(ブルガリア語)		
略奪の大地 ('88)／リュドミル・スタイコフ	2'44	Bul-0002
(中国語)		
古井戸 ('87)／ウー・ティエンミン	2'10	C-0048
欲望の翼 ('90)／ウォン・カーウアイ	1'34	C-0207
上海ルージュ ('94)／チャン・イーモウ	1'50	C-0268
太陽の少年 ('94)／チアン・ウェン	2'08	C-0288
ブエノスアイレス 摂氏零度 ('02)／クアン・ブンリョン、アモス・リー	0'57	C-0307/B
月夜の願い ('93)／ピーター・チャン、リー・チーガイ	1'37	C-0313
花の影 ('96)／チェン・カイコー	2'08	C-0316
スパイシー・ラブスーブ ('98)／チャン・ヤン	1'49	C-0317
クレイジー・イングリッシュ ('99)／チャン・ユアン	1'30	C-0323
メイド・イン・ホンコン ('97)／フルーツ・チャン	1'50	C-0346
水滸伝 第1-9巻、付録 ('97)／張紹林	etc	C-0369
アイ ('03)／オキサイド&ダニー・パン	1'39	C-0370
キッチン ('97)／イム・ホー	1'52	C-0371
青の稲妻 ('02)／ジャ・ジャンクー	1'52	C-0372
HERO ('02)／チャン・イーモウ	1'39	C-0373
(チェコ語)		
コーリャ 愛のプラハ ('96)／ヤン・スピエラーク	1'46	Cz-0017
(ドイツ語)		
未完成交響楽 ('33)／ヴィリ・フォルスト	1'28	D-0006
レニ ('93)／レイ・ミュラー	3'05	D-0080
ラン・ローラ・ラン ('98)／トム・テイクヴァ	1'21	D-0109
ヒトラー ('02)／クリスチャン・ヘレンドルファー	2'34	D-0137
エーミールと探偵たち ('03)／フランツィスカ・ブッフ	1'47	D-0138
(フランス語)		
太陽がいっぱい ('60)／ルネ・クレマン	1'58	F-0003
パッション ('82)／ジャン＝リュック・ゴダール	1'28	F-0009
男と女 ('66)／クロード・ルルーシュ	1'43	F-0010
どん底 ('36)／ジャン・ルノワール	1'25	F-0024
天井桟敷の人々 ('45)／マルセル・カルネ	3'10	F-0040
彼女について私が知っている二、三の事柄／ジャン＝リュック・ゴダール	1'27	F-0071
オルフェ ('49)／ジャン・コクトー	1'37	F-0108
双頭の鷲 ('47)／ジャン・コクトー	1'27	F-0113
ノートルダムスの傴僂男(ノートルダム・ド・パリ) ('56)／ジャン・ドラノフ	2'00	F-0138
ロゼッタ ('99)／リュック&ジャン＝ピエール・ダルデンヌ	1'42	F-0361
僕の妻はシャルロット・ゲンズブール ('03)／イヴァン・アタル	1'35	F-0391
レセ・パセ:自由への通行許可証 ('03)／ベルトラン・タヴェルニエ	2'43	F-0392
(フィン語)		
過去のない男 ('03)／アキ・カウリスマキ	2'10	Fin-0001
(ギリシア語)		
旅芸人の記録 ('74-'75)／テオ・アンゲロプロス	3'52	G-0002

〈資料名(公開年)／監督名〉	〈時間〉	〈資料番号〉
狩人('77)／テオ・アングロプロス	2'52	G-0007
1936年の日々('72)／テオ・アングロプロス (ヒンディー語)	1'45	G-0010
モンスーン・ウェディング('01)／ミラ・ナイール	1'54	H-0115
ラガン('01)／アシュトーシュ・ゴーワリケール	2'44	H-0118
ミモラ 心のままに('99)／サンジャイ・リーラー・バンサーリー (ヘブライ語)	3'08	H-0119
キプール勝者なき戦場('00)／アモス・ギタイ (イタリア語)	1'58	Heb-0005
ルートヴィヒ('72)／ルキーノ・ヴィスコンティ	3'57	It-0016
ひまわり('70)／ヴィットリオ・デ・シーカ	1'47	It-0022
特別な一日('77)／エットレ・スコラ	1'41	It-0046
ストロンボリ('49)／ロベルト・ロッセリーニ	1'39	It-0065
赤い砂漠('64)／ミケランジェロ・アントニーオ	1'57	It-0070
わが青春のフロレンス('70)／マウロ・ボロニーニ	1'51	It-0073
イノセント('75)／ルキーノ・ヴィスコンティ	2'04	It-0077
ニュー・シネマ・パラダイス('89)／ジュゼッペ・トルナトーレ	2'04	It-0083
イル・ボスティエーノ('96)／マイケル・ラドフォード	1'49	It-0111
ライフ・イズ・ビューティフル('97)／ロベルト・ベニーニ	1'57	It-0123
太陽は夜も輝く('90)／パオロ&ヴィットリオ・タヴィアーニ	1'54	It-0126
BARに灯ともる頃('89)／エットレ・スコラ (日本語)	1'40	It-0130
柳川掘割物語('87)／高畑勲	2'47	J-0154
八月の狂詩曲('91)／黒澤明	1'38	J-0182
忘れられた子供たち スカベンジャー('94)／四ノ宮浩	1'40	J-0236
日本の黒い夏[冤罪]('01)／熊井啓	1'59	J-0421
スパイ・ゾルゲ('03)／篠田正浩	3'02	J-0518
手塚治虫実験アニメーション作品集('03)	2'32	J-0525
阿弥陀堂だより('03)／小泉堯史	2'08	J-0527
BLUE('03)／安藤尋	1'56	J-0529
シーズンオフ('92)／中原俊	1'41	J-0530
ナチュラル ウーマン('94)／佐々木浩久	1'23	J-0531
浮草('59)／小津安二郎 (韓国語)	1'59	J-0532
太白山脈('94)／イム・グォンテク	2'45	K-0014
祝祭('96)／イム・グウォンテク	1'50	K-0088
八月のクリスマス('98)／ホ・ジノ	1'37	K-0104
冬のソナタ	@1'00	K-0137
黒水仙('01)／ペ・チャンホ (キルギス語)	1'45	K-0138
旅立ちの汽笛('02)／アクタン・アブディカリコフ (イヌイット語)	1'30	Kir-0001
氷海の伝説('01)／ザカリアス・クヌク (ペルシア語)	2'52	Np-0001
桜桃の味('97)／アッバス・キアロスタミ	1'38	P-0053
運動靴と赤い金魚('97)／マジッド・マジディ	1'28	P-0056
酔っぱらった馬の時間('03)／バフマン・ゴバディ (ポーランド語)	1'20	P-0080
鷺の指輪('92)／アンジェイ・ワイダ	1'44	Po-0030
チェシロフスキー・コレクションI 1-5 (ロシア語)	8'20	Po-0033
誓いの休暇('59)／グリゴリー・チュフライ	1'30	R-0016
ストーカー('79)／アンドレイ・タルコフスキー	1'03	R-0033
人間の運命('59)／セルゲイ・ボンダルチュク	1'37	R-0042
罪と罰('70)／レフ・クリジャエフ	3'38	R-0045
メキシコ万歳('31)／セルゲイ・エイゼンシュテイン	1'28	R-0084

〈資料名(公開年)／監督名〉	〈時間〉	〈資料番号〉
パパってなに? ('97)／パーヴェル・チュフライ	1'37	R-0131
東部戦線1944 ('02)	1'34	R-0145
(スペイン語)		
神経衰弱ぎりぎりの女たち ('88)／ペドロ・アルモドバル	1'30	S-0057
チェ・ゲバラ 人々のために ('99)／マルセロ・シャブセス	1'29	S-0096
(スウェーデン語)		
第七の封印 ('56)／イングマール・ベルイマン	1'32	Sw-0024
夏の遊び ('50)／イングマール・ベルイマン	1'31	Sw-0025
魔笛 ('74)／イングマール・ベルイマン	2'15	Sw-0026
散歩する惑星 ('00)／ロイ・アンダーソン	1'38	Sw-0045
(多言語)		
セプテンバー11 11'09"01 ('02)	2'14	W-0001
(英語)		
素晴らしき哉、人生! ('46)／フランク・キャブラ	2'10	E-0014
オール・ザ・キングスメン ('49)／ロバート・ロッセン	1'51	E-0030
第三の男 ('49)／キャロル・リード	1'45	E-0047
夏の嵐 ('54)／ルキーノ・ヴィスコンティ	1'58	E-0086
陽のあたる場所 ('51)／ジョージ・ステイヴンス	2'02	E-0128
屋根の上のバイオリン弾き ('71)／ノーマン・ジュイソン	3'00	E-0151
家族の肖像 ('74)／ルキーノ・ヴィスコンティ	2'01	E-0163
明日に向かって撃て! ('69)／ジョージ・ロイ・ヒル	1'50	E-0183
パピヨン ('73)／フランク・J・シャフナー	2'25	E-0217
カッコーの巣の上で ('75)／ミロス・フォアマン	2'08	E-0309
北北西に進路を取れ ('59)／アルフレッド・ヒッチコック	2'17	E-0311
テルミン ('33)／ステイヴン・M・マーティン	1'22	E-0315
ラストエンペラー ('87)／ベルナルド・ベルトリッチ	3'20	E-0333
トップ・ハット ('35)／マーク・サンドリッチ	1'38	E-0354
眺めのいい部屋 ('85)／ジェームズ・アイヴォリー	1'57	E-0385
ひとりぼっちの青春 ('69)／シドニー・ポラック	1'54	E-0432
危険な年 ('83)／ジェームス・マッケルロイ	1'55	E-0436
小さな恋のメロディ ('71)／デヴィッド・バットナム	1'46	E-0467
いまを生きる ('89)／ピーター・ウイアー	2'09	E-0472
薔薇の名前 ('86)／ジャン＝ジャック・アノー	2'12	E-0481
フィールド・オブ・ドリームス ('89)／フィル＝アルデン・ロビンソン	1'45	E-0483
遠い夜明け ('87)／リチャード・アッテンボロー	2'38	E-0495
スパルタカス ('60)／スタンリー・キューブリック	3'03	E-0562
レナードの朝 ('90)／ベニー・マーシャル	2'01	E-0608
未来世紀ブラジル ('85)／テリー・ギリアム	2'23	E-0630
ジョイ・ラック・クラブ ('93)／ウェイン・ワン	2'19	E-0692
ショーシャンクの空に ('94)／フランク・ダラボン	2'24	E-0747
日の名残り ('93)／ジェームズ・アイヴォリー	2'14	E-0801
セルロイド・クローゼット ('95)／ロブ・エプスタイン&ジェフリー・フリードマン	1'42	E-0807
天国の日々 ('78)／テレンス・マリック	1'34	E-0884
パーフェクト・カップル ('98)／マイク・ニコルズ	2'24	E-0953
太陽の掬 ('99)／イシュトヴァーン・サボー	3'01	E-1129
シカゴ ('02)／ロブ・マーシャル	1'53	E-1135
めぐりあう時間たち ('03)／ステイヴン・ダルドリー	1'55	E-1136
モハメド・アリ かけがえのない日々 ('02)／レオン・ギャスト	1'28	E-1137
エデンより彼方に ('04)／トッド・ヘインズ	1'47	E-1138
ふたりの男とひとりの女 ('01)／ボビー・ファレリー、ピーター・ファレリー	1'57	E-1140
ペイ・フォワード ('01)／ミミ・レダー	2'04	E-1141
じゃじゃ馬馴らし ('29)／サム・テイラー	1'06	E-1142
永遠のマリア・カラス ('02)／フランコ・ゼフィレッリ	1'44	E-1143
アイ・アム・サム ('01)／ジェシー・ネルソン	2'13	E-1144
ARARAT アララトの聖母 ('02)／アトム・エゴヤン	1'55	E-1145

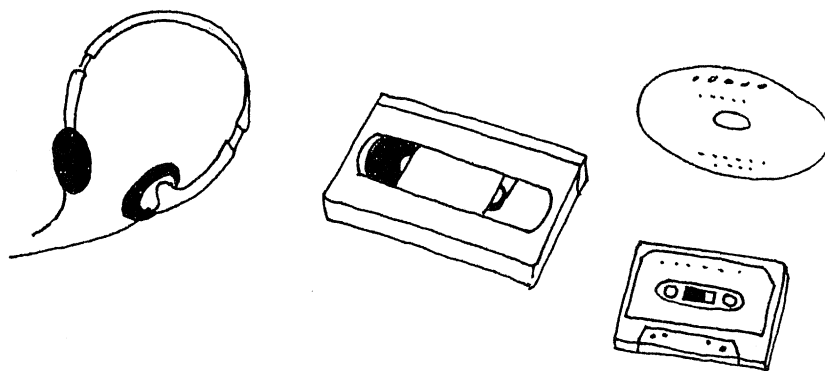
AVライブラリーからのお知らせ

従来、図書館棟3階、4階にありましたAVライブラリーは平成16年夏に総合研究棟3階に移設統合されました。建物の位置の関係で入口がちょっと解りにくく、最初は入りにくい感じを受けるかも知れませんが、たくさんの資料が皆様のご利用をお待ちしています。どうぞ思い切って入って来てください。個々のブースは以前よりずっと広くなり、より快適に視聴いただけると思います。映像資料もオリジナルはすべて陳列棚に配架しましたので（DVDはパッケージのみですが）、直接手にとってみて選んでいただけます。これからはできるだけDVD資料を増やしていきたいと思っています。今あるLDも順次DVDに変えていく予定です。

学習・研究にあるいは勉学の合間のリフレッシュにどうぞ、どしどしご利用ください。

チョット情報

AVライブラリーは午前中よく空いています。人気の資料を確実に見たい、あるいは、落ち着いてゆっくり見たいという方、どうぞ午前中にお越しください。



お問い合わせは

TEL/FAX 072-730-5131

E-mail ll5131@osaka-gaidai.ac.jp

AV Journal —第35号—

2005年3月25日発行

編集 附属図書館利用部門

発行 大阪外国語大学

印刷 (株)ユニワールド印刷センター